



平成22年12月期 第1四半期決算短信 (非連結)

平成22年5月14日

上場会社名 **大和重工株式会社** 上場取引所 東証二部
 コード番号 5610 URL <http://www.daiwaijuko.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 田中 保昭 TEL (082) 814-2101
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経理部長 (氏名) 桑田 豊幸
 四半期報告書提出予定日 平成22年5月14日
 配当支払開始予定日 -

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年12月期第1四半期の業績 (平成22年1月1日～平成22年3月31日)

(1) 経営成績(累計) (%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年12月期第1四半期	971	△ 23.3	△ 35	-	△ 19	-	△ 49	-
21年12月期第1四半期	1,265	-	△ 9	-	4	-	4	-

	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益	
	円	銭	円	銭
22年12月期第1四半期	△ 3.66		-	
21年12月期第1四半期	0.35		-	

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円		百万円		%		円	銭
22年12月期第1四半期	6,200		2,647		42.7		195.36	
21年12月期	6,252		2,625		42.0		193.70	

(参考) 自己資本 22年12月期第1四半期 2,647百万円 21年12月期 2,625百万円

2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金								
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間				
	円	銭	円	銭	円	銭			
21年12月期	-		0.00		-		0.00		0.00
22年12月期	-								
22年12月期(予想)			0.00		-		0.00		0.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 : 無

3. 平成22年12月期業績予想 (平成22年1月1日～平成22年12月31日)

(%表示は通期は対前期、第2四半期累計期間は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
第2四半期累計期間	2,000	△ 18.0	△ 90	-	△ 60	-	△ 120	-	△ 8.85	
通 期	4,300	△ 1.6	△ 150	-	△ 80	-	△ 140	-	△ 10.33	

(注) 業績予想数値の当四半期における修正の有無 : 無

4. その他

(1) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

(注) 詳細は、5 ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

(2) 四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更（四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの）

① 会計基準等の改正に伴う変更 無

② ①以外の変更 無

(注) 詳細は、5 ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む） 22年12月期第1四半期 13,580,000株 21年12月期 13,580,000株

② 期末自己株式数 22年12月期第1四半期 25,749株 21年12月期 25,349株

③ 期中平均株式数（四半期累計期間） 22年12月期第1四半期 13,554,513株 21年12月期第1四半期 13,556,535株

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、実際の実績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項は4 ページ【定性的情報・財務諸表等】3. 業績予想に関する定性的情報をご覧ください。

定性的情報・財務諸表等

1. 経営成績に関する定性的情報

当第1四半期会計期間におけるわが国経済は、輸出の増加などで一部の業種に景気回復の兆しはみられたものの、生産設備や労働力の過剰感が根強く、デフレ基調も持続しており、国内製造業の設備投資需要は、先行きの不安感から依然として抑制傾向が強く厳しい状況で推移いたしました。

このような厳しい環境のもと、当社は積極的な営業活動を展開してまいりましたが、不安定な原材料価格や厳しい受注競争もあり、企業収益の圧迫要因となりました。また、受注の減少に対応した生産調整を行う一方で、収益改善を図るため、原価の低減、経費削減に注力いたしました。

この結果、当第1四半期会計期間の売上高は、9億71百万円（前年同期比23.3%減）、営業損失は35百万円（前年同期は営業損失9百万円）、経常損失は19百万円（前年同期は経常利益4百万円）、四半期純損失は49百万円（前年同期は四半期純利益4百万円）となりました。

部門別の概況は次のとおりです。

〈産業機械関連機器部門〉

工作機械業界の受注高は、中国をはじめ新興国向けが好調で、今後も持続的に伸長するものと思われま

す。工作機械業界の受注高が平成21年12月以降4カ月連続で前年同月を上回り、1～3月累計では、前年同期比324.0%の受注状況となっております。ただ、伸び率が高いのは前年の落ち込みが大きかった反動であり、水準的には低いものであります。最悪期は脱したものと思われま

すが、国内向けの回復は海外に比べ依然として力強さに欠けている状況が続いております。当社におきましては、前年同期比105.3%の受注実績となっております。ディーゼルエンジン鋳物部品の受注高は、リーマン・ショック以降、造船業界の受注が海運市況悪化の影響から新規商談が進んでおりま

せんでしたが、昨年12月頃より新規商談が復活始めております。平成20年までの海運ブーム時の受注による生産が始まっており、当社におきましても、前年同期比144.3%の受注実績となっております。産業機械鋳物部品の受注高は、専用特殊機械や医療用機械向けの受注があったものの、製鉄、鉱山機械向けの受注が減少したことにより、前年同期比32.7%の受注実績となっております。

産業機器関連部門全体において、価格競争力の強い韓国や中国製などが台頭しており、これまで国内の企業同士で受注を競っておりましたが、今では海外勢との価格競争から低価格で受注せざるを得なくなっており、産業機器関連鋳物部

品を製造しております当社にとりましても、企業収益の圧迫が懸念されております。その結果、当部門の受注高は、5億45百万円（前年同期比2.1%増）、売上高は4億54百万円（同46.1%減）、受注残高は6億98百万円（同27.7%減）となりました。

〈住宅関連機器部門〉

住宅関連機器部門におきましては、昨年度に新設住宅着工件数が42年振りに100万戸割れとなり、今年に入っても相変わらず低迷を続けております。当会計期間の新設住宅着工件数は、前年同期比10%減の低水準で推移して

おり、そのため、住宅設備機器市場は、受注競争の激化や建設資材の高騰等により、厳しい環境となっております。自社の主力製品である「鋳物ホーロー浴槽」は、新築ホテル等の大型案件もあったことから、前年同期に比べ20%程度増加いたしました。仕入商品である介護分野向けの「特注ユニットバス」や官公庁向けの「ステンレス浴槽」の販売は好調に推移して

おり、また、防災商品の「移動かまど」の販売も堅調に推移して

おります。その結果、当部門の売上高は5億17百万円（同22.2%増）となりました。

2. 財政状態に関する定性的情報

(1) 資産、負債、純資産の状況

当第1四半期会計期間末の資産合計は、前事業年度末に比べ51百万円減少し62億円となりました。

流動資産は、主に売掛金の減少等により前事業年度末に比べ83百万円減少し、27億71百万円となりました。

固定資産は、主に投資有価証券の増加により前事業年度末に比べ32百万円増加し、34億29百万円となりました。

当第1四半期会計期間末の負債合計は、74百万円減少し35億52百万円となりました。

流動負債は、主に未払金等の減少により、前事業年度末に比べ58百万円減少し、26億31百万円となりました。

固定負債は、主に長期借入金の減少により前事業年度末に比べ15百万円減少し、9億21百万円となりました。

純資産合計は、主に有価証券評価差額の増加により前事業年度末に比べ22百万円増加し、26億47百万円となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第1四半期会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前事業年度末に比べ78百万円増加し、7億72百万円となりました。

当第1四半期会計期間におけるキャッシュ・フローの状況は次のとおりです。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、1億88百万円（前年同期は1億52百万円の使用）となりました。これは主に売上債権の減少による資金獲得があったものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、50百万円（前年同期は6億36百万円の使用）となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出があったことによるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は、59百万円（前年同期は1億34百万円の使用）となりました。これは主に長期借入金の返済によるものです。

3. 業績予想に関する定性的情報

本資料に記載されている業績予想につきましては、平成22年2月12日付発表「平成21年12月期決算短信（非連結）」の記載から変更はありません。なお、業績予想は、本資料の発表時現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後、様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

4. その他

(1) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(簡便な会計処理)

① 棚卸資産の評価方法

当第1四半期会計期間末の棚卸高の算出に関しては、実地棚卸を省略し、前会計年度末の実地棚卸高を基礎として合理的な方法により算定しております。

また、棚卸資産の簿価切下げに関しては、収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積り、簿価切下げを行う方法によっております。

② 固定資産の減価償却費の算定方法

固定資産の年度中の取得、売却及び除却等を見積りを考慮した予算を策定しているため、当該予算に基づく年間償却予定額を期間按分して算定しております。

③ 繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法

繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前事業年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められるので、前事業年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

(四半期財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

該当事項はありません。

(2) 四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

該当事項はありません。

5. 四半期財務諸表
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	当第1四半期会計期間末 (平成22年3月31日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成21年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	947,981	869,943
受取手形及び売掛金	1,133,995	1,346,621
商品及び製品	410,836	386,241
仕掛品	52,389	22,592
原材料及び貯蔵品	167,009	177,747
繰延税金資産	20,072	15,844
未収入金	22,997	31,370
その他	17,209	6,024
貸倒引当金	△1,000	△1,000
流動資産合計	2,771,491	2,855,387
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	521,020	525,182
機械及び装置（純額）	984,537	1,054,011
土地	372,873	372,873
その他（純額）	151,932	156,971
有形固定資産合計	2,030,363	2,109,039
無形固定資産		
無形固定資産合計	16,656	16,335
投資その他の資産		
投資有価証券	1,136,661	1,022,417
投資不動産（純額）	170,461	172,189
その他	85,416	87,575
貸倒引当金	△3,450	△3,450
投資損失引当金	△6,700	△6,700
投資その他の資産合計	1,382,390	1,272,032
固定資産合計	3,429,409	3,397,407
資産合計	6,200,901	6,252,794

(単位：千円)

	当第1四半期会計期間末 (平成22年3月31日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成21年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	628,627	623,297
短期借入金	1,743,282	1,751,492
未払法人税等	2,041	2,690
賞与引当金	39,137	14,000
その他	218,387	298,692
流動負債合計	2,631,475	2,690,172
固定負債		
長期借入金	654,796	706,460
繰延税金負債	50,531	19,203
退職給付引当金	116,086	109,856
役員退職慰労引当金	43,925	45,437
長期預り敷金	56,115	56,115
固定負債合計	921,454	937,073
負債合計	3,552,930	3,627,246
純資産の部		
株主資本		
資本金	651,000	651,000
資本剰余金	154,373	154,373
利益剰余金	1,681,344	1,731,019
自己株式	△4,899	△4,863
株主資本合計	2,481,818	2,531,529
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	166,153	94,019
評価・換算差額等合計	166,153	94,019
純資産合計	2,647,971	2,625,548
負債純資産合計	6,200,901	6,252,794

(2) 四半期損益計算書
(第1四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自平成21年1月1日 至平成21年3月31日)	当第1四半期累計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年3月31日)
売上高	1,265,997	971,028
売上原価	1,079,984	835,079
売上総利益	186,012	135,949
販売費及び一般管理費	195,411	171,576
営業損失(△)	△9,398	△35,626
営業外収益		
受取利息	170	92
受取配当金	322	315
受取地代家賃	24,490	24,490
その他	2,960	10,437
営業外収益合計	27,943	35,336
営業外費用		
支払利息	7,829	9,045
不動産賃貸関係費	5,787	5,523
製品処分損	—	4,146
その他	62	47
営業外費用合計	13,679	18,762
経常利益又は経常損失(△)	4,865	△19,053
特別損失		
投資有価証券評価損	4,157	—
固定資産処分損	1,248	1,413
災害による損失	—	42,648
特別損失合計	5,405	44,062
税引前四半期純損失(△)	△539	△63,115
法人税、住民税及び事業税	17,766	570
法人税等調整額	△23,084	△14,011
法人税等合計	△5,318	△13,440
四半期純利益又は四半期純損失(△)	4,778	△49,674

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自 平成21年1月1日 至 平成21年3月31日)	当第1四半期累計期間 (自 平成22年1月1日 至 平成22年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純損失(△)	△539	△63,115
減価償却費	103,920	93,510
賞与引当金の増減額(△は減少)	48,260	25,137
退職給付引当金の増減額(△は減少)	992	6,229
前払年金費用の増減額(△は増加)	△6,928	2,729
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	△1,512	△1,512
受取利息及び受取配当金	△492	△407
支払利息	7,829	9,045
災害損失	—	42,648
投資有価証券評価損益(△は益)	4,157	—
有形固定資産処分損益(△は益)	1,248	1,413
投資不動産賃貸収入	△24,490	△24,490
投資不動産賃貸費用	5,787	5,523
売上債権の増減額(△は増加)	211,707	212,625
たな卸資産の増減額(△は増加)	△24,543	△72,747
仕入債務の増減額(△は減少)	△376,949	30,629
未払消費税等の増減額(△は減少)	△7,607	△21,140
その他	△62,253	△32,397
小計	△121,415	213,682
利息及び配当金の受取額	378	341
利息の支払額	△10,348	△9,956
災害損失の支払額	—	△13,553
役員保険積立金の増減額(増加：△)	△810	△570
法人税等の支払額	△20,147	△1,103
営業活動によるキャッシュ・フロー	△152,343	188,840
投資活動によるキャッシュ・フロー		
投資有価証券の取得による支出	△1,000	△1,000
有形固定資産の取得による支出	△654,168	△69,111
無形固定資産の取得による支出	△2,350	△1,402
投資不動産の賃貸による収入	24,490	24,490
投資不動産の賃貸による支出	△3,837	△3,783
投資活動によるキャッシュ・フロー	△636,865	△50,805
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	150,000	750,000
短期借入金の返済による支出	△210,000	△750,000
長期借入金の返済による支出	△27,410	△59,874
配当金の支払額	△46,785	△87
その他	△69	△36
財務活動によるキャッシュ・フロー	△134,265	△59,997
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△923,474	78,037
現金及び現金同等物の期首残高	1,119,307	694,943
現金及び現金同等物の四半期末残高	195,833	772,981

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

6. その他の情報

該当事項はありません。